



令和6年6月20日(木)

# 東彼杵中だより

文責：校長 正尾 敏

第13号

## 令和6年度 県学力調査結果分析(2・3年生)

令和6年4月に実施されました長崎県学力調査の結果が判明しました。すでに新聞等に掲載されていますが、本校では、3年英語では県平均を大きく上回ったものの、2年国語・数学は県平均にわずかに届かないといった結果でした。そこで、今回の学校だよりでは2年生で実施された2教科について、特に**県平均との差が大きかった問題**について分析し、今後の授業改善について説明させていただきます。

### 国語科：文脈に即して漢字を正しく書く

三 文章中の下線部のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

生活を**ハッテン**させてきたか、それを見てみよう。

本調査において、県の正答率との比較において最も差が大きく、課題と捉えています。「発展」は小学校で習う漢字であり、きちんと身につけていないことが伺えます。多かった誤答としては、「展」が正しく書かれていない解答が多かったようです。文脈の中で適切な漢字を使うことや、漢字を正しく書くことに課題が見られます。

#### ～授業改善ポイント～

国語の調査結果は県の結果とほとんど差はありません。言い換えれば、このような小学校で習う漢字を正確に答えることがより大事になります。「展」の漢字は中学2年生では書ける漢字であり、文脈を通して、その言葉の意味は理解できていますが、きちんと正確に身につけてなければ、正確な答えにはなりません。そこで、その言葉の文脈中の意味をしっかりと理解し、その意味から適切な漢字が想定できる語彙力を身につけることと、適切な漢字を正しく書ける練習を授業の中でさらに取り組んでいきたいと思えます。

### 数学科：分数を含む方程式、文字を用いた式

2. 次の問題を解きなさい

(1)  $1/2X=1/5X+3$  を解きなさい。

(2) 1冊x円のノート3冊と1本y円の鉛筆2本買った時の代金の合計を、文字を使った式で表しなさい。

本調査において、県正答率との差が一番大きかった問題が一次方程式の問題です。分数を含む一元一次方程式を解けるかどうかをみる問題ですが、すべての項を10倍して整数に直すことができず、正しく解けなかったと考えられます。分数の通分について、正しく計算することに課題が見られます。

また、(2)の数量の関係を文字を用いた式で表す問題ですが、1冊x円のノート3冊を「3x」、1本y円の鉛筆2本を「2y」と文字式に直すことができなかつたと考えられます。上の問題とあわせ、中学1年生で習う基礎的な問題であるため、文字式の表し方についての課題が見られます。

#### ～授業改善ポイント～

数学の調査結果は県の平均に0.5ポイント届かなかただけで、ほとんど差はありません。上記であげた基礎問題をきちんと解くことができれば、県平均を上回ることができました。分数を含む一次方程式の計算や数量の関係を文字を用いた式で表す問題は1年生で習う基礎的な内容です。間違った生徒はおそらく1年時に解き方についてしっかりと定着できないままであったと思われる。基礎・基本を繰り返し学習することで確実に全員が解けるようにすることが大事です。グループで協働的な学びあいを行ったり、家庭学習の復習としてAIドリルを活用したりして、何度も繰り返し解くことで、全員がしっかりと解き方を身につけ、次の単元に進むように今後も授業で取り組んでいきたいと思えます。さらに、過去に習った問題の復習にも定期的に取り組むようにしていきます

東彼杵中 学校教育目標

心豊かでたくましく、主体的に学ぶ生徒の育成